

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです  
世の中の出来事に偶然はないのだよ。君がここにいるのも必然なのだ。

ビルの屋上から下の十字路を見下ろしている男がいます。いま、その十字路の先を東から西へと車がスピードを上げて走って来ました。ふと北を見ると、老人が交差点に向かって南に歩いています。「このままではぶつかる・・・」屋上の男には、手に取るように数十秒後の光景がみえるのですが、車も老人もビルの谷間の交差点へと向かっています。そして、衝突。「いやあ、あんな角から急に車が出てくるとは。不運でした。」「私こそ、あのいつも人通りの少ない交差点で人間をはねるなんて、偶然とはいえ・・・」屋上の男は思います。いや、あの事故は偶然なんかじゃない。私には完全に予測できたのだから。あの事故は必然的に起きたのですよ。日本人で初のノーベル賞をとった京都大学名誉教授、故湯川秀樹博士はこのような例をあげて、「一つの出来事が偶然起こるなどと言うのは、人間の傲慢なのだ。」と語っています。入社日、その日から社長車の運転手兼務になった私は、早速船井幸雄社長のところにいき、冒頭の言葉をかけられたのです。「人間に役割があるように、時間には時間の、出来事には出来事の役割があるのだよ」だから、どんな大変なことや嫌なことでも、自分に何か教えようとしてやってくれると考えなければいけないのです。

人間に成功する性格があるとすれば、一つひとつの出来事や時間にその役割を尋ねることができるという性格があげられます。

さまざまな指示やら約束を忘れてしまって、怒られたり・嫌われてしまう人がいるとしましょう。「なんてツキがないのかしら、大事な約束を忘れてしまうなんて。しかもそれを気づかれるなんて最低！忘れましょう」そんなひとり言、悪口雑音を誰でも一度は口にします。なんてツキがない！運が悪い！あるいは、こう嘆く人もいます。ああ、私は本当にダメだ。あんなことをいつも忘れてしまう。本当に能力がない！本当にツキがなく、運が悪くて、拳句の果てに能力がないから、大切な指示や約束を忘れるのでしょうか？決してそうではないのです。成功が性格からもたらせるとすれば、その失敗は同じように、性格から発生しているのです。すぐにメモを取らない性格。安請け合いをしてしまう性格。確認をしない性格。これらは、決して能力欠陥ではありません。クセづけをすれば、その後は防げるはずです。メモを取る、安請け合いはしない、確認をしよう、毎朝、今日の約束を出がけに考えよう。これはクセづけです。一つの失敗は偶然ではなく、クセづけを意識しないために必然性があるって連続するのです。とすれば、その失敗が何を教えようとしているのか、その出来事に耳を澄ませば良いだけです。「失敗が多いほど伸びるのだぞ。その失敗から学べばいい」先生の言葉を実践するには、目の前の出来事を必然と捉えることから始まります。君がここにいるのも必然なのだ。この言葉を聞いたときの心の躍動。一期一会を英語に訳すと「NOW&HERE」になる。ある経営者から教えられたことがあります。いま、ここで、この一瞬でも、目の前の人間の力になればいい。船井先生のその意志が伝わってきました。「いっぱい学びなさい。若いうちはね、学んで伸びるのだから」そうか、学ぶとはすべての事象を必然と捉えることから始まるのだ、そんなことにも気づかされた入社式でした。

日本人で初のノーベル賞をとった京都大学名誉教授、故湯川秀樹博士はなんと語っていますか？

( )

人間に成功する性格があるとすればどんな性格ですか？

( )